

令和6年の漁業産出額は、海面漁業におけるいわし類の価格の低下等により、前年から3.1%減少し、1兆6,055億円となった。

【統計結果の概要】

令和6年の漁業産出額は、海面養殖業において、のり類の価格が上昇したものの、海面漁業において、いわし類の価格が低下したこと等により、前年に比べて508億円（3.1%）減少の1兆6,055億円となった。

図1 漁業産出額の推移（全国）

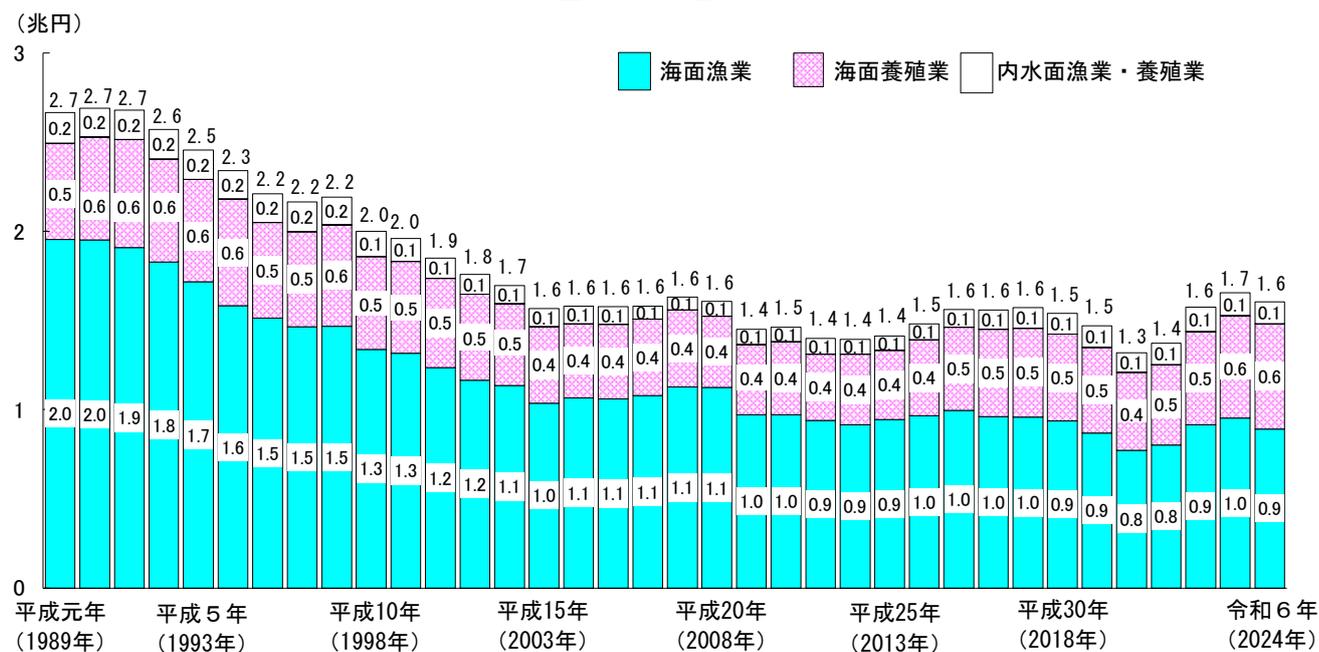


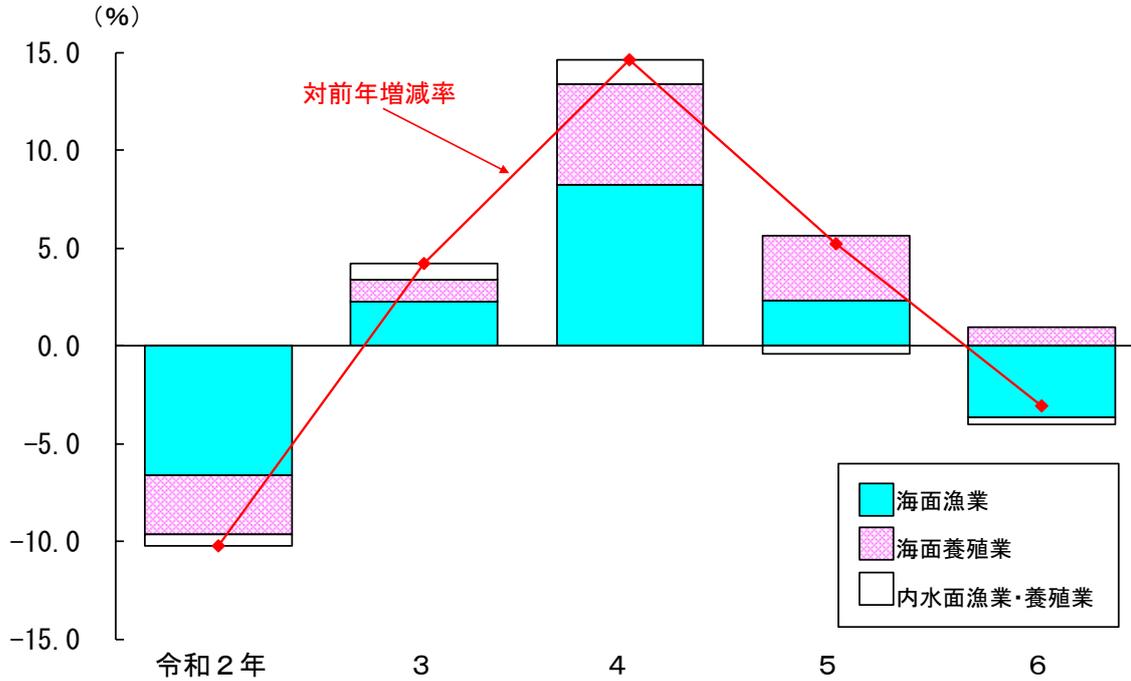
表1 漁業産出額（全国）

区 分	令和5年	6		対前年 増減率	
		実数	構成割合		
漁業産出額計	億円 16,563	億円 16,055	% 100.0	% △ 3.1	
海面漁業	9,519	8,915	55.5	△ 6.3	
海面養殖業	5,731	5,891	36.7	2.8	
内水面漁業	149	142	0.9	△ 5.2	
内水面養殖業	1,163	1,107	6.9	△ 4.8	

注：1 構成割合、対前年増減率は統計表の表章単位（百万円）で算出した数値である（以下同じ。）。

2 表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下同じ。）。

図2 漁業産出額の対前年増減率と区分別寄与度の推移（全国）



【関連データ】

主要水産物の輸出額の推移

品目名	令和2年	3	4	5	6	
					実額	対前年増減率
	億円	億円	億円	億円	億円	%
農林水産物 計	9,256	11,626	13,372	13,580	14,092	3.8
水産物 計	2,276	3,015	3,873	3,901	3,609	△ 7.5
うちホタテ貝	360	720	1,079	899	872	△ 3.0
ぶり(活・生・蔵・凍)	(173)	(246)	363	417	414	△ 0.8
真珠(天然・養殖)	76	171	238	456	412	△ 9.7
かつお・まぐろ類 (生・蔵・凍)	204	204	178	227	201	△ 11.3
いわし(生・蔵・凍)	77	74	116	99	108	9.3
なまこ(調製)	181	155	184	169	105	△ 38.0
さば(生・蔵・凍)	204	220	188	122	98	△ 19.5
観賞用魚	49	60	64	68	73	7.5

資料：農林水産省輸出・国際局「農林水産物輸出入概況」

注：1 品目名は「令和6年農林水産物輸出入概況」の区分とした。

なお、ホタテ貝は、ホタテ貝(生・蔵・凍・塩・乾・くん)とホタテ貝(調製)の合計である。

2 「ぶり」については、令和4年1月から集計対象範囲が「生鮮・冷蔵・冷凍」から「活魚」を含めた「活・生鮮・冷蔵・冷凍」に拡大したことから、過去の実績との単純比較ができないため、令和3年までの実績に(括弧)を付している。

3 金額は、FOB価格 (Free on board、運賃・保険料を含まない価格) である。

4 対前年増減率は、原数値 (千円) で算出した数値である。

【統計結果】

1 漁業産出額（全国）

(1) 海面漁業

令和6年の産出額は、前年に比べ604億円（6.3%）減少し、8,915億円となった。

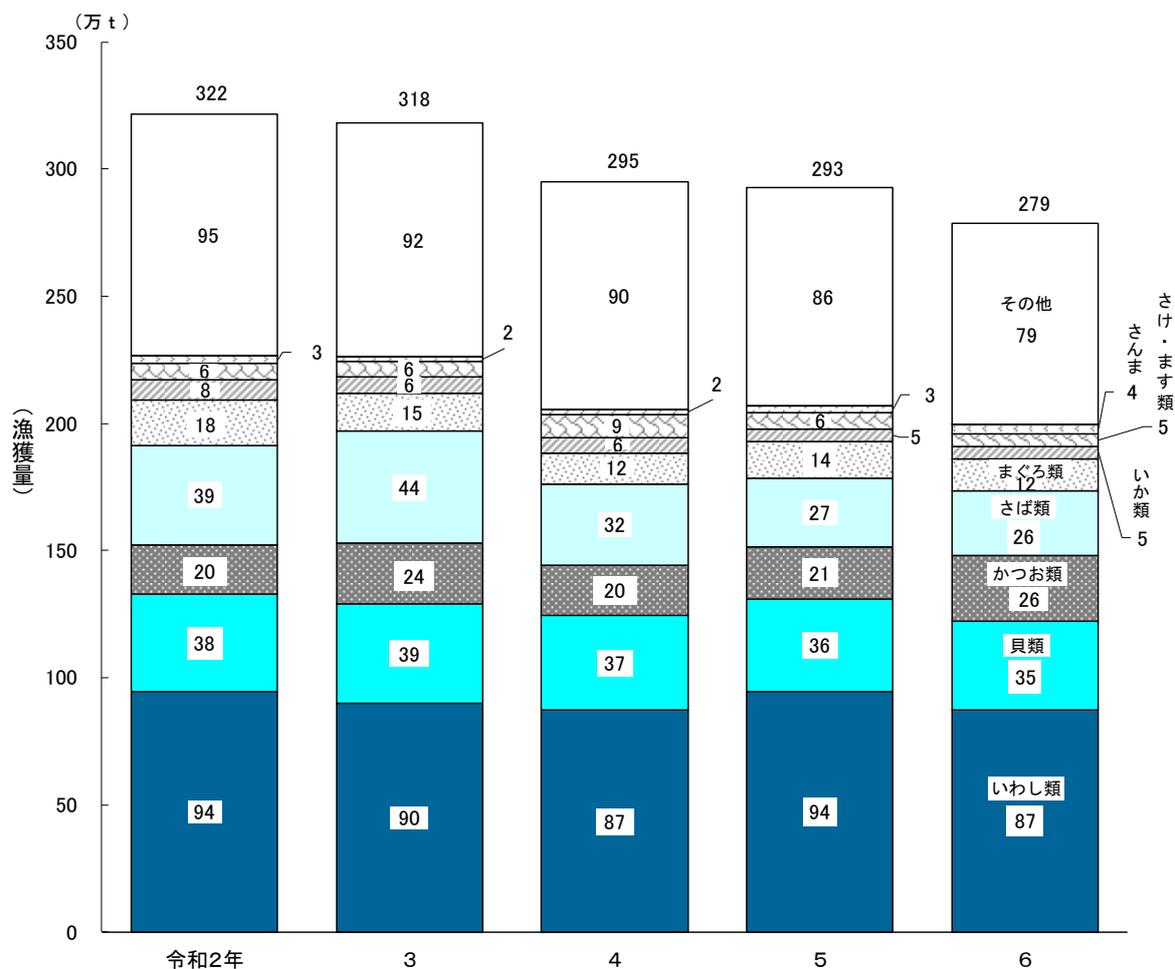
これは、いわし類（しらす等）において、漁獲量が減少し、価格も前年の高値から低下したこと、まぐろ類の漁獲量が減少したこと等が影響したものと考えられる。

表2 海面漁業の産出額の推移（全国）

区 分	単位	令和2年	3	4	5	6
実 額	億円	7,725	8,020	9,154	9,519	8,915
対前年増減率	%	△ 11.1	3.8	14.1	4.0	△ 6.3

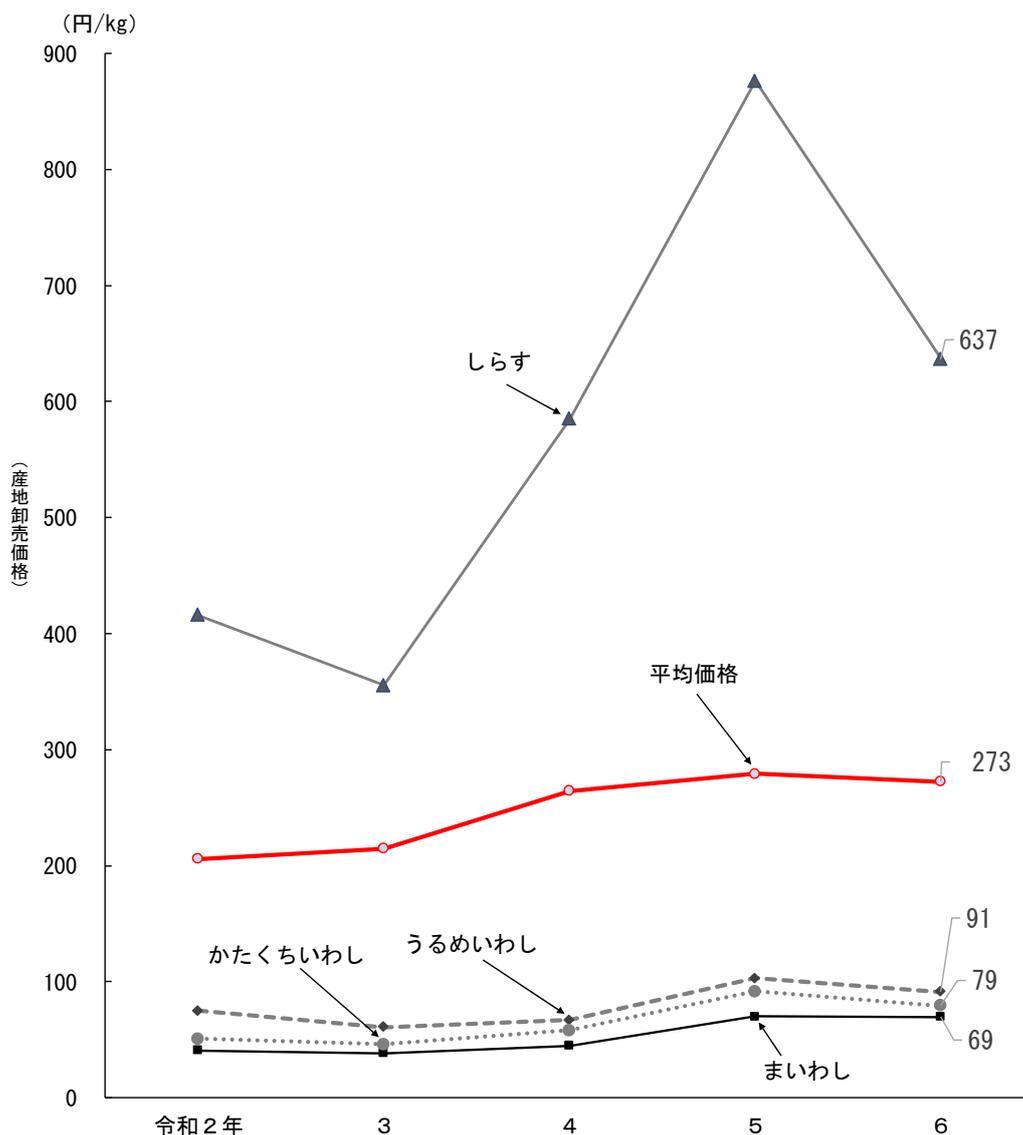
【関連データ】

海面漁業の漁獲量の推移（全国）



資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

海面漁業等の平均価格といわし類の価格の推移（全国）



資料：水産庁「産地水産物流通調査」

(2) 海面養殖業

令和6年の産出額は、前年に比べ160億円（2.8%）増加し、5,891億円となった。

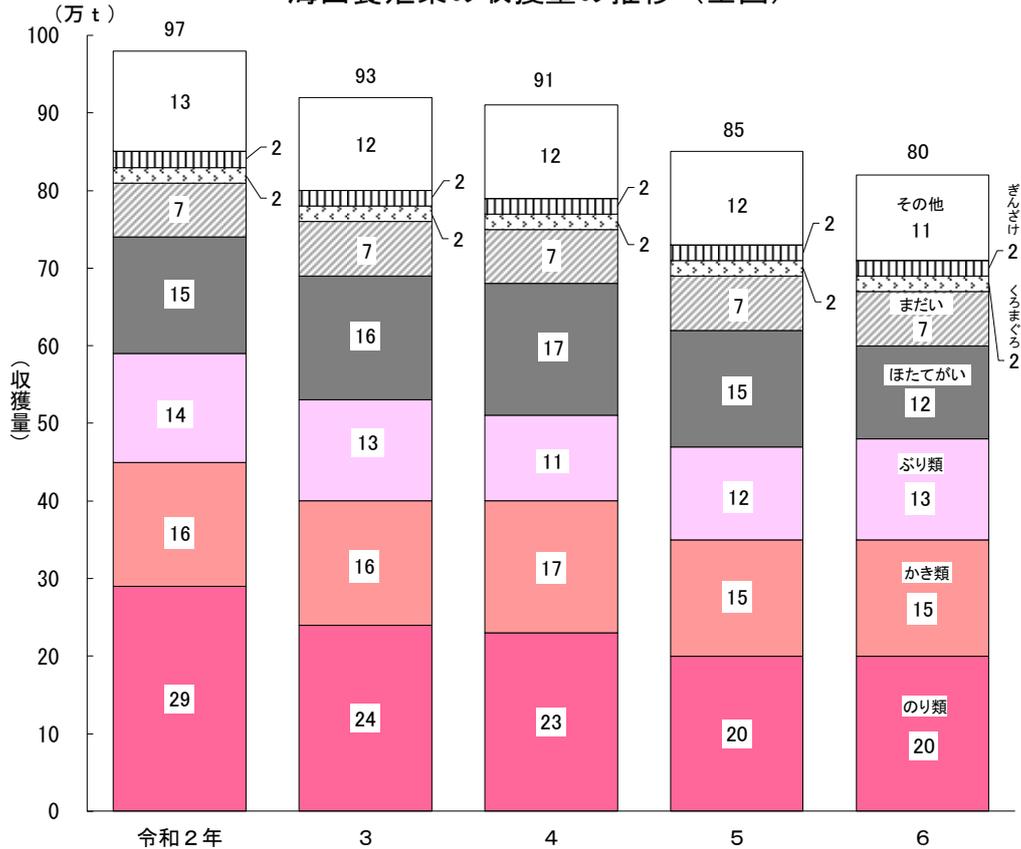
これは、ほたてがいにおいて、輸出の低迷により価格が低下したものの、のり類において、令和4年秋から続く国内の不作に伴い価格が上昇したことや、くろまぐろの収穫量が増加したこと等によるものと考えられる。

表3 海面養殖業の産出額の推移（全国）

区分	単位	令和2年	3	4	5	6
実 額	億円	4,357	4,505	5,211	5,731	5,891
対前年増減率	%	△ 9.3	3.4	15.7	10.0	2.8

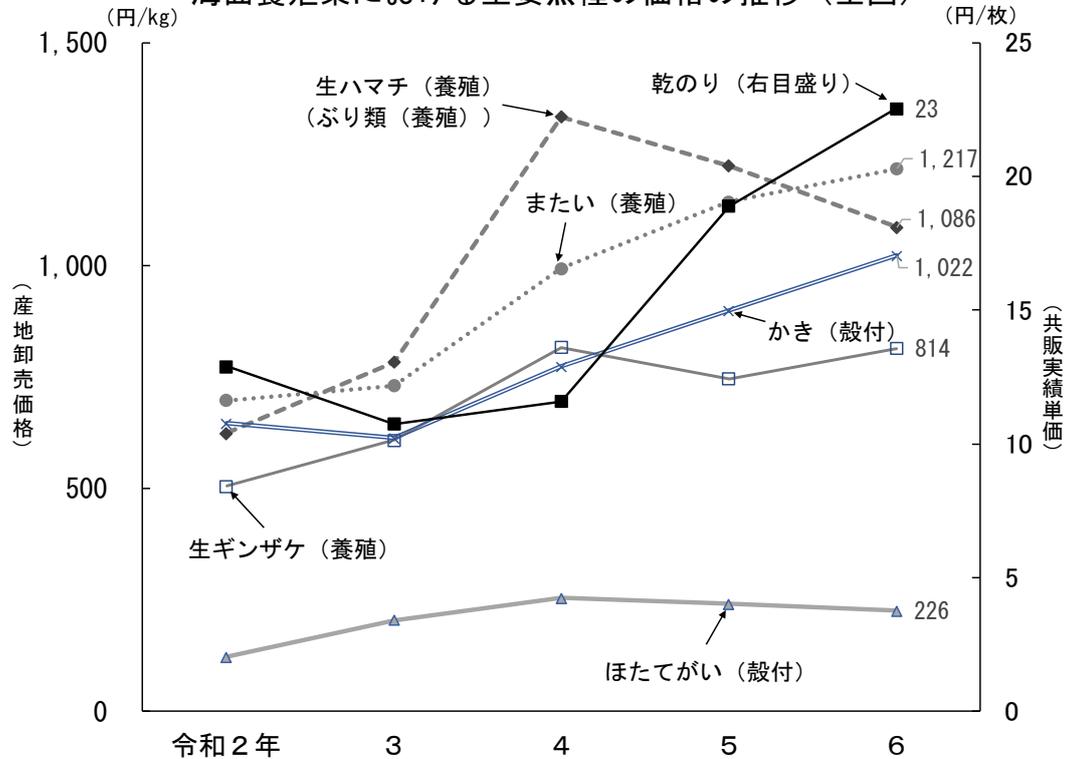
【関連データ】

海面養殖業の収穫量の推移（全国）



資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

海面養殖業における主要魚種の価格の推移（全国）



資料：（一社）漁業情報サービスセンター調べ、全国漁連のり事業推進協議会調べ、水産庁「産地水産物流通調査」及び東京都中央卸売市場「市場統計情報（月報・年報）」

注：1 乾のりの共販実績単価は、全国漁連のり事業推進協議会の共販実績（数量・価格）を用いて、農林水産省において年平均単価（1月～12月）として再集計した結果である。

2 生ハマチ（養殖）（ぶり類（養殖））及び生ギンザケ（養殖）の産地卸売価格は、（一社）漁業情報サービスセンター調べ、またい（養殖）の産地卸売価格は、東京都中央卸売市場「市場統計情報（月報・年報）」結果、かき（殻付）及びほたてがい（殻付）の産地卸売価格は、「産地水産物流通調査」結果である。

3 ほたてがい（殻付）の価格は、海面漁業を含んだ価格である。

(3) 内水面養殖業

令和6年の産出額は、前年に比べ56億円(4.8%)減少し、1,107億円となった。

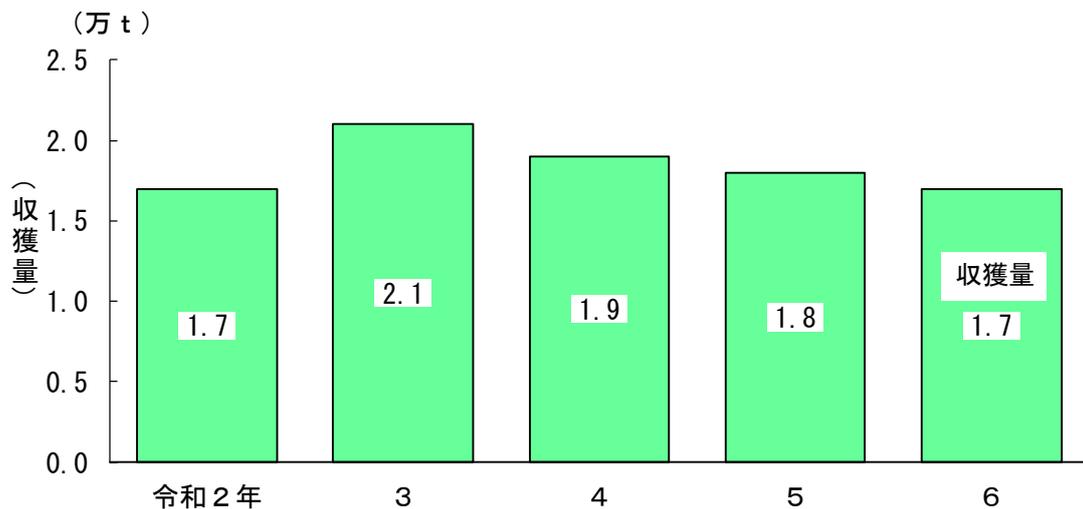
これは、うなぎ養殖業において、シラスウナギの取引価格の高止まりにより、池入数量が減少したため、収獲量が減少したこと等が影響したものと考えられる。

表4 内水面養殖業の産出額の推移(全国)

区分	単位	令和2年	3	4	5	6
実額	億円	935	1,056	1,219	1,163	1,107
対前年増減率	%	△8.9	13.0	15.4	△4.6	△4.8

【関連データ】

うなぎの収獲量の推移(全国)



資料：農林水産省統計部「漁業・養殖業生産統計」

2 生産漁業所得（全国）

令和6年の生産漁業所得は、前年に比べ483億円（6.3%）減少し、7,208億円となった。これは、海面漁業の産出額が減少したこと等が影響したものと考えられる。

表5 生産漁業所得の推移（全国）

区 分	単位	令和2年	3	4	5	6
実 額	億円	6,398	6,854	7,360	7,691	7,208
対前年増減率	%	△ 10.7	7.1	7.4	4.5	△ 6.3

3 都道府県別海面漁業・養殖業産出額

令和6年における海面漁業・養殖業産出額の上位5都道府県は、北海道が2,793億円（対前年増減率1.5%減少）、長崎県が1,174億円（同5.2%減少）、愛媛県が1,153億円（同6.2%増加）、宮城県が843億円（同5.1%減少）、鹿児島県が793億円（同3.2%増加）の順となった。

表6 上位5都道府県の実海面漁業・養殖業産出額の推移

区分	令和2年	3	4	5	6	
					実額	対前年増減率
	億円	億円	億円	億円	億円	%
全 国	12,062	12,504	14,340	15,226	14,785	△ 2.9
うち北海道	2,021	2,569	3,135	2,836	2,793	△ 1.5
長 崎	892	936	1,109	1,238	1,174	△ 5.2
愛 媛	753	850	979	1,086	1,153	6.2
宮 城	720	655	922	888	843	△ 5.1
鹿 児 島	646	658	770	768	793	3.2

注：1 令和6年の都道府県別海面漁業・養殖業産出額の上位5都道府県について表章した。
 2 全国及び都道府県別海面漁業・養殖業産出額には、捕鯨業（くじら類）の産出額を含まない。

図3 上位5都道府県の実海面漁業・養殖業産出額の魚種別構成割合

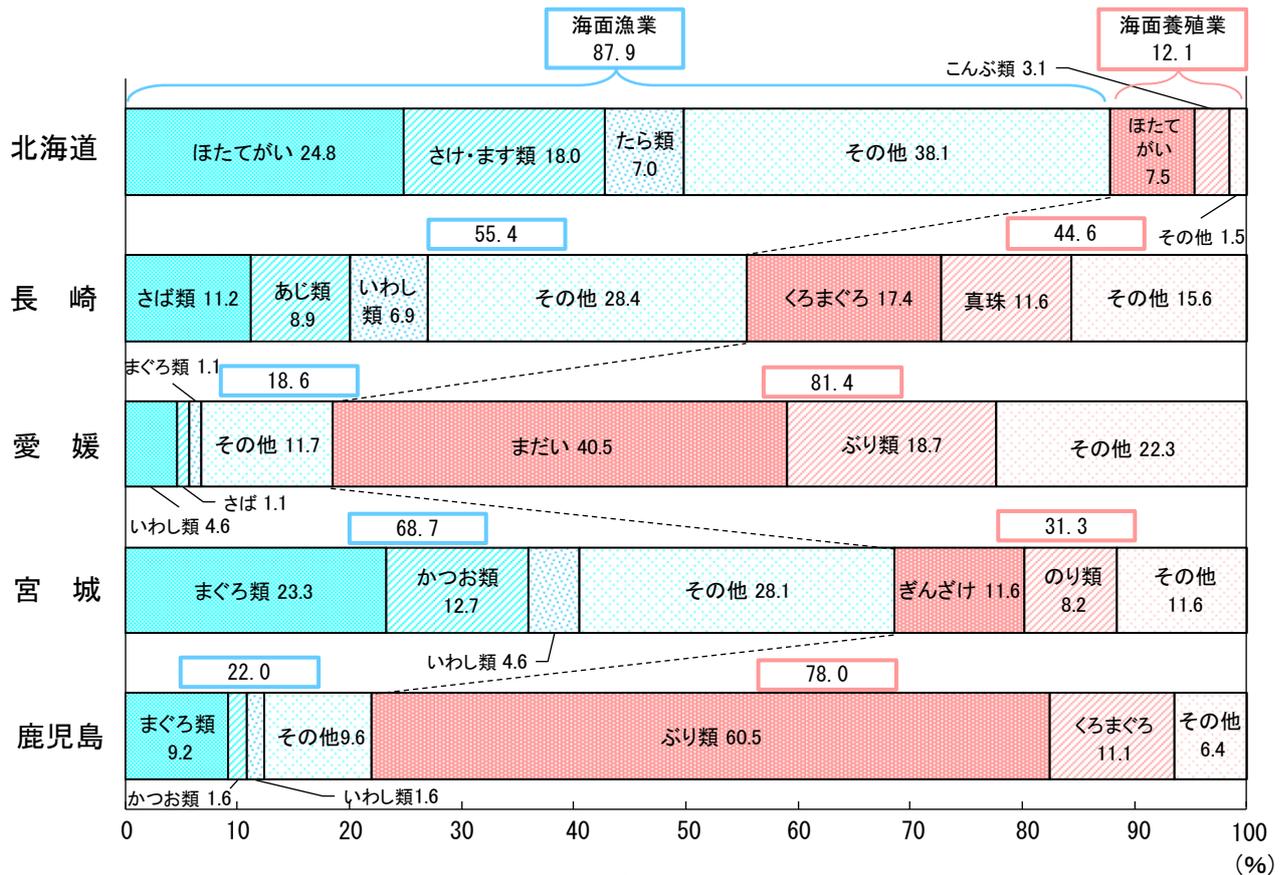
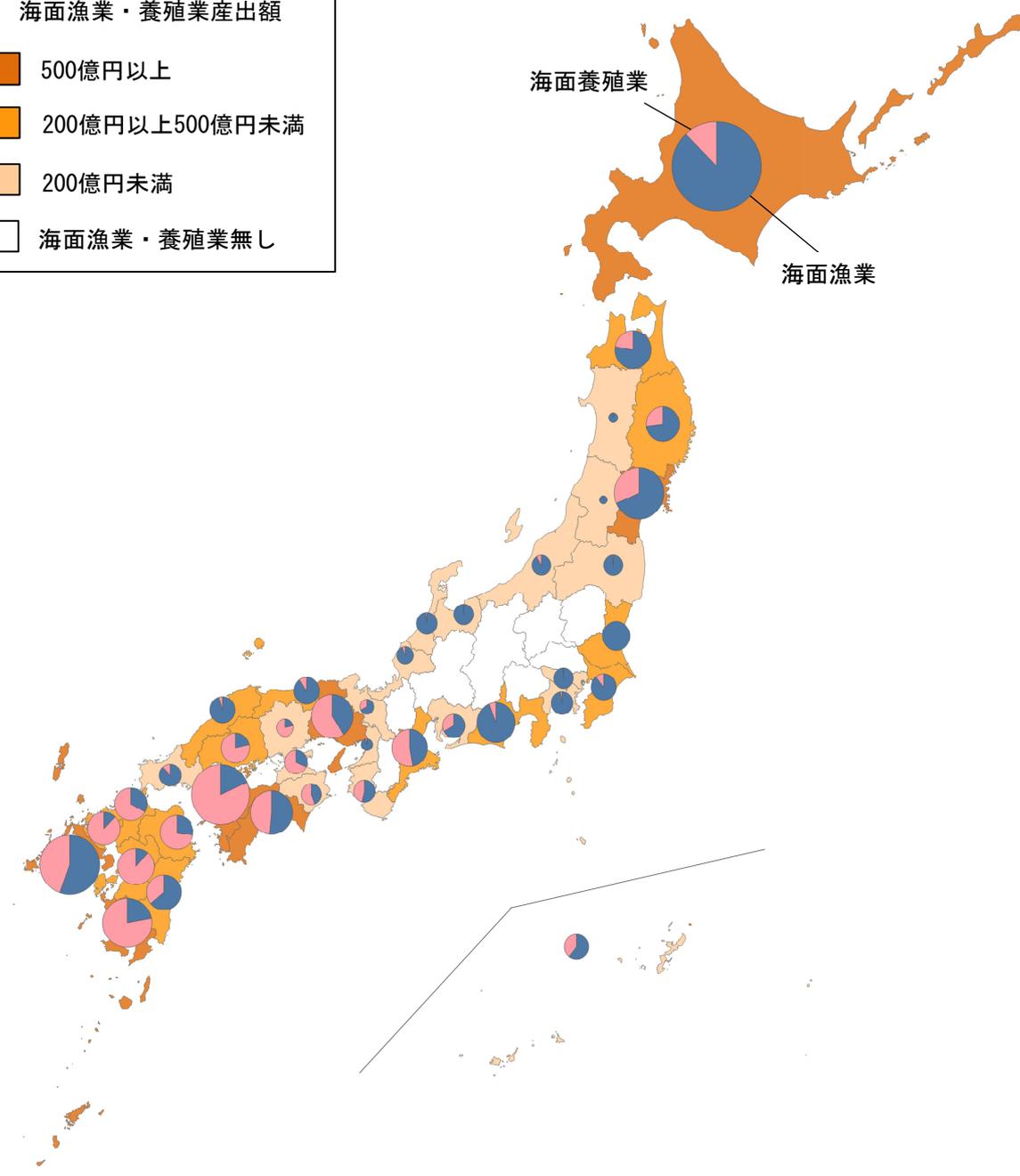
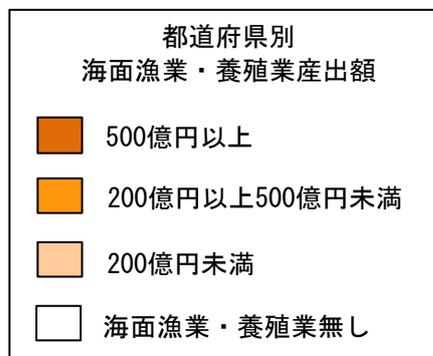


図4 都道府県別海面漁業・養殖業産出額及び構成割合

(凡例)



注：都道府県ごとの円グラフの大きさは、漁業産出額（実額）を表している。